

1982年12月号
1983年1月号

1982年12月5日発行(毎月1回5日発行)

No.77

あんふあんて

発行人/ 発行所/ あんふあんて出版部
定価/ 100円 振替口座/ あんふあんての会 電話/

男女平等の世の中なんて
いつの世にか ほんとうに
やってくるのでしょうか?
かすみ草の水切りをしながら
ふと考えました

そんな世の中になったら
男が こんなふうにして
やはり 花をいけるのでしょうか?
それとも
そんな世の中になったら
もう花をいける人など
いなくなるのでしょうか?

何だか 気の遠くなるような虚しさ
かすみ草が微かに震えました

それでも
開かねばならないことは
知っているのです

詩 松浦
イラスト 斉藤

逐次刊行物

昭 58. 1. 12 和

国立婦人教育会館
情報図書室



あんふぁんての目 新会員訪問インタビュー シリーズその①



「あんふぁんて」ってこの頃特徴なくなっ
たね、とよく言われます。本音を出し合う・
子供のペースを維持しながら動いていくとい
う最初からの姿勢は決して変わっていないの
に……。現実に編集にたずさわっているのは
小学生の子供を持った比較的身軽に動ける女
たちが多いからでしょうか。乳幼児を抱えた
他の会員は一体何を考え、何を思っているの
でしょうか？声が聞きたいな、手紙もらいた
いな、なんて待つばかりじゃなくて、今月は
新しく会員になられた茅ヶ崎市のAさん宅へ
おじゃまして来ました。

二十九才、二カ月の男児一人、大阪生まれ
の大阪育ち。ダンナの転勤で上京し今年の四
月に再び転勤で茅ヶ崎市にやって来たそうで
す。

たとも言えますよね。結婚してその後ダンナ
の転勤が決まって上京したんです。仕事をや
めてしまいう事にとっても未練はあったし、今
もあるけど結婚はそれ以上の意味を自分に与
えてくれたような気がする。どんな？って言
われるとうーん答えにくいけど、自分を一番
わかってくれる人がある、相手の事は私が一
番よく知っているという安心感・安定感みた
いなものかしら。東京でもずっと英語の講師
をしていました。茅ヶ崎に来て九月に子供が
産まれたんですよ。人間関係ですか？ここ
は社宅ではないけど何家族か同じ会社の人達
が入っています。その奥さん達とはわりとうま
くいってます。今はそうね、どこにも行けな
いけれど毎日仕事だけに目を向けていた頃と
違って色々な人達とのつき合いが楽しいし、
落ち着いて物を見る事ができるようになって
きた。だから家に閉じ込められてしまったと
いうような焦りやイライラはない。仕事はや
りたいです。フルタイムで？それは条件次第。
家の事・子育てに支障がくるような働き方は
したくない。それに子供は二人と決めている
からまだちょっと仕事の方はわからないな。
二人というのはやはり兄弟を与えるためかな、
三人はいりません。子供はかわいいし育てる
責任を強く感じる。とにかく仕事もやりたい
子供も満足いくように育てたいと思うから、
それをするにはどうしたらよいのか今からあ
れこれ準備してます。この前は保育園の見学
にも行って来たんですよ。

例え嫌いな物でもそれをどうやって食べさ
すかとか……。そんな記事って会報読んでて
も出てないけど、それは別に読むだけです
ごい刺激になる。「あんふぁんて」の人達
てすごいエネルギー持っているみたい。ただ
子育てとかは、こうあるべきだという確固と
した考え方があつていて、頭で考えている
のが先行してしまっているようなそんな気が
する事があります。エ？彼は家事も、休日に
は子育てもちゃんとやってくれますよ。最初
はそんな事なかったけど、私がどんどん言っ
ていったのね、本当に彼が納得すればちゃん
とやるみたいです。

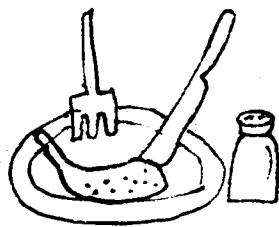
(牧田)

「彼女の話から」

アメリカの大学院に一年行って帰国してか
ら高校の教師をしたのだけれど、あまりにも
文部省の規制がうるさくて自分で自由なやり
方はできそうもないと見極め、その後大阪の
大学内で通訳の仕事につきました。拘束時間
は多くないけど、相手を知るための下調べだ
とか自分で色々やっておく事が多くて仕事に
没頭する毎日だったけど、とっても充実して
ました。それはでも、他の世界を知らずにき

「あんふぁんて」は友達から教えてもらっ
たんです。そうね今子供の手で関心があるの
は、人が聞いたら本当に些細な事なんです

あんふぁんての お金のこと



▲決算報告 81年10月1日〜82年9月30日
*入の部 合計2500255円
①参加費 2479585円
②雑収入 20670円

*出の部 合計2501410円

- ③情報誌印刷費 647380円
- ④情報誌郵送費 433000円
- ⑤保険料 123560円
- ⑥スタッフ交通費 181560円
- ⑦事務人件費 585000円
- ⑧事務局家賃 315000円
- ⑨事務通信費 106320円
- ⑩事務印刷費 65340円
- ⑪事務用品費 12090円
- ⑫資料費 21560円
- ⑬雑費 10600円

つまり今期の収支は若干の赤字1155円
*前期からの繰越 1005164円
⑭現金 335938円

- ⑮郵便口座 136800円
- ⑯定期預金・定期預金 900000円
- ⑰普通預金 77060円
- ⑱商品(Tシャツ・トレーナー) 32000円
- ⑲未入金 48000円
- ⑳未払金 (赤字勘定) 384760円
- ㉑仮受金 (赤字勘定) 27320円
- *次期への繰越 1004009円
- ㉒現金 5343円
- ㉓郵便口座 162460円
- ㉔定期預金・定期預金 900000円
- ㉕普通預金 77060円
- ㉖商品(Tシャツ・トレーナー) 74000円
- ㉗未払金 (赤字勘定) 126680円
- ㉘仮受金 (赤字勘定) 18820円
- つまり今期の増減は 減1155円

ごらんのように、今期だけを見ると若干
の赤字となっていますが、現在の会員数は
573名で、昨年の637名より64名減と
なり、今後が心配です。残高が百万円近くあ
るのと思うかもしれませんが、この次期繰
越の中でも、本当の意味で各会員の参加費払
込のうち次期の分として納入されているのは
約三割なんです。残り七割は、発足以来七年
間の参加費が遅れ遅れに払い込まれ、その間
の出入金を抑えてきたから貯ったもので、その
使い道はいつもの活動とは別な形で考えたい
と思います。

次に予算ですが、今期は「入」と「出」と
もに月平均208500円ぐらいでした。一

応、それを基に二割アップとして、月230
000円で予算を考えてみました。

▲予算案

- *出の部 2300000円
- (a)情報誌印刷費 610000円
- (b)情報誌郵送費 320000円
- (c)保険料 110000円
- (d)事務人件費 400000円
- (e)事務局家賃 450000円
- (f)事務費 170000円
- (g)電話代・コピー・切手・用品・資料など 200000円
- (h)スタッフ交通費 200000円
- (i)予備費 400000円

これらの2300000円を確保するために
は、月40000円の参加費を現在の会員数の5
73名全員が支払っても2292000円でま
だ足りません。ではどうするか。まずは、未
納がある方は必ず払込みを忘れずに、納入率
百パーセントを目ざすことです。そして、会
員を増やすことをみんなでガンバリたいと思
います。会員ひとり知り合いひとり誘う
というクチコミ方式が理想的ですね。次に、
今期はとも少なかつた催事や企画によるお
金づくりも少しアタックしてみませんか。
もし、みんなの協力で金銭的運営がうまく
いくようでしたら、第一に、事務人件費を上
乗せしたいと思っています。昨年、事務局を広め
の家へ引っ越して家賃負担も増えました。
その分のしわ寄せを人件費で調整したのです
が、いかにせん少なすぎます。是非スライド
アップできるよう御協力ください。

なお、決算報告や予算でわかりにくい点が
ありましたら、私まで御問い合わせを。(古知)

優生保護法改悪反対

大田区 集会に参加して

朝十時から五時というのはちょっときついなと思いつつも、やっぱり出かけてみた。朝はめだつた空席も昼すぎには超満員。健康な女は中絶できなくなり、もしすれば堕胎罪に問われることになる。ヤミ中絶が増え女たちの生命が危険にさらされる。女達の子宮を管理し、産めよ増やせよと人口増強し、これは戦前の富国強兵政策とおなじ。優生保護法改悪は軍国主義化への道。という主張が壇上の女達から出された。そんな中で全陣連の鈴木さんから障害者が施設に入る条件として卵巣・子宮摘出手術を受けることというのがあるという。愕然とした。障害者が妊娠すると周囲の人(両親でさえも)が中絶を迫ることもよくあるそう。鈴木さんは障害者が不妊手術を選ばざるを得ない社会では女が産む産まない自由などない、と優生保護法そのものに対する疑問も訴えた。また鈴木さんの介護人の女性も子供を産みたいが、出産後、彼女の代りに確実に鈴木さんの介護をしてくれる人を探さないことには子供が産めない状態にあるという。さまざまな分野で活躍している女達が産む産まない権利を主張する中で、障害者としての自分の本音をさらけ出し堂々と訴えた鈴木さんの発言はひととき光っていた。私も子供二人を産んだものの現在は産む自由も産まない自由も持ち合せていない。身体的理由でもう産めないから。女達の生の声が聞きたいな。地域の女達と本音で話し合えるミニ集会を開きたいと思っている。

署名集め雑感

奈良市

署名用紙を送ってきた時、今更りと親しくしている三人に、お茶を飲みながら、つとめてさりげなく、でも強い決意をもって、見せ話をしました。反応は：
A・ふうーん、でも私、たとえ四十才すぎても、おろさないんじゃないかな。
B・四十才すぎても産むしか方法がないって、たまらないじゃない？
C・(無言で)テーブルの端っこの方へ、用紙をおいやる。(彼女は、引越して重なるからと一年前に中絶経験者)
あーやっぱりこの人達とは、そういう付き合い方しかしなきゃいけないんだと、ひどく疲れきっちゃって、改めて「福岡あふふんての皆さまーん」と呼びたくなった次第。

茅ヶ崎市

湘南の大きな団地に越してきて一年。署名を集めることで何人友達ができただか、お互いにどこまで理解し合えたか、知ることができると思いました。あふふんてについて、優生保護法について、なぜ署名を集めているのかを、一人一人に理解してもらい、心をこめて署名してもらいました。しかしはりきりすぎて疲れてしまっていて残念ながら、幼稚園の役員さん達のしか集められませんでした。これから時間をかけて一人でも多くの理解者をふやしていきたいと思っています。

川口市

署名を集めた場所は近所の公園、生協関係者、公民館の講座参加者等です。一番集めにくかったのが公園でした。警戒されたり(名前を悪用されるのでは？と)署名をしない主義の人多かつたり「二時のワイドショー」というテレビ番組の、のぞき趣味的な話題と同一視されたり「あふふんて」の意味を聞かれて自分でもうまく説明できなかったり、(自身あまり活動していないものだから)公園には幼い子を遊ばせている若いお母さん達が多いのですが「我家だけは安全(避妊が絶対大丈夫ということ)だから無関係」と言われたり、十人十色の反応に良い経験を持ちました。でも楽しかった面もありましたよ。記事の説明をする時もよく聞いてくれる人にはうれしくなって一生懸命しゃべりはしましたが、(当然のことながら突然の話題なものですから)相手方から考えを聞くことの無い一方通行が多かったような気がします。育児に熱中している時期だけになかなか突込んだ話題には発展せず、分断されているヤングママの姿がそこにあつて、もっと呼びかけ合い集まってなにか行動を起こせないものかしらと思ったものです。

署名用紙と共に本当にたくさんの手紙が寄せられています。その全てを載せられないのが残念です。署名集めはまだ続けています事務局まで送ってくださいね。(牧田)

厚生省・議員会館 訪問記



伊勢原市

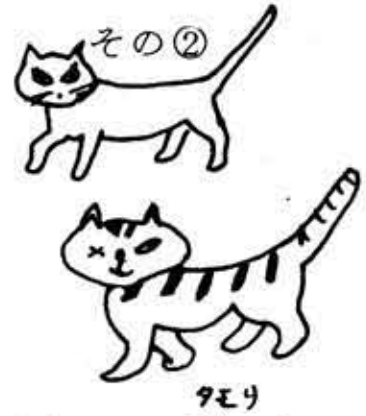
十月十九日、厚生省玄関集合。ロビーに他の団体もいてザワザワ落ちつかず、子連れが半数いる私達もさして目立ちません。約束の十時三十分、所狭しとロッカー、机の並ぶ八階精神衛生課(ナゼカ?)へ行き、大人十五名に面接セットではとても足りず、イスをかき集めてくれます。

あふふんての代表者、会員数、歴史、目的等尋ねられ、名刺を請われて、とまどいます。代表者とか名刺にこだわるんですヨネ。大臣あて要望書を、室田さんが読みあげ、改正反対署名、千八百二十三名分を手渡します。今日は話し合いの場ではないとの事で、これまでの経過をまず話してくれました。さらに厚生省公衆衛生審議会で検討された答申を参考にして、国民のコンセンサスを、改正案とするかどうか大臣が決定するそうです。ただし、国民のコンセンサスを得る、と言いつつ、厚生省を訪れる反対・賛成各団体の意見を文書にまとめて、大臣へ提出する事と新聞紙上の意見を参考にする位しか、道はないらしい。審議会のメンバーは十三名中、女性唯一名で、検討内容の公開はしないし、こ

れまでのところ顔合せに一度集まったきりで、まだ検討されていない。定例ではないため招集があれば審議会がもたれるが、一、二回で一挙に結論が出ることもありうるそうです。審議会の検討内容を公開して欲しい。一般の女性の声を聞く道を開いて欲しい等要望して、生命は大切だ、中絶は危険でいけないとわかった上で、なおかつ経済的理由の削除に反対するとみんなで訴えます。
「お子さんは何人ですか」
「二人です。給与もすえ置かれ、生活が苦しいから勉強して避妊してます」
「それでも失敗した場合どうなさいますか？」
「ナンテ、人間的質問(？)で佐々木厚生事務官もマナ板にのせられ苦笑い、これからはオジャマ虫となることを宣言して、一時間で終わりました。
午後都合の悪い人は帰り、昼食は二手に分かれ子連れグループは日比谷公園のベンチで弁当を広げ、日向ぼっこしながら、ゆっくりできました。十二時半、厚生省前で合流し、議員会館まで官庁街を歩きましたが、土の無い舗装道路は子供達にきつかったようです。訪問に当っては、用件、人数等記入した申請書を出し、受付で各議員室に確認して許可されます。煙草の煙にむせそうなおロビー、入口に立つ警備員に、少し疲れてきました。
衆院では四名ずつ分かれて回りました。私が行ったのは秘書に会えず事務員ばかりで、あふふんての紹介や女性議員として優生保護法とどう取り組んでいるのか等尋ねても関心のないらしい森山真弓議員室。次は女性議員の懇談会で呼びかけてみたいと、積極的な

姿勢で感じよく答える大瀧淑子議員室。それでも、衆参合わせて二十五名の女性議員しかいないのに、三、四カ月に一回位で何かあれば招集すると心細い限りです。特に自民党は総裁戦を控えて地元へ行ったり忙しそうでした。最後に皆で訪ねた共産党の栗田みどり議員室では、初めて腰かけてゆっくり話せました。男性がお茶を入れてくれたりして、子供も飽きてうるさくなってきた時だけにホッと一息つけました。厚生省も女性の意向は割合目を配っていて、抗議に行ったり新聞への投書等も大きな婦人団体には慣れているけれど、あふふんてのような運動も大きいと思いますよ、と励まされました。
今回は署名用紙を授けようと持ち歩いているうち忘れたので、届けがでたら参加したのですが、私自身迷っていた事もふっきました。優生保護法に関心のない人に署名を求めにくくて困っている時に、署名をつきつける事で考えるきっかけになるのではと言われて、頭ではそう思いつつ、納得できませんでした。それは、私が中絶は悪いことだわりのモチ、優生保護法改正を深く考えていない事が原因の一つでもあったようです。これまで色々な署名に取り組んできたけれど、問題点を掘り下げて話し合う事が日常でにくいというのは、私の署名活動自体がどこか間違っているのではと考えている最中にきた優生保護法の署名だったので、うっかりすると誤解を招くと思ったのです。
知らない事は悪い。国民のコンセンサスを得て、と言うが賛否両論うずまく中で、どうやっていくのだろう。

公開質問状の返事



日本共産党

質問①について 反対

優生保護法の改悪をすすめる側は「経済大
国の日本では『経済的理由』の中絶は現状に
合わない」ということを理由の第一にあげて
いますが、これはまったく現実を無視するも
のです。

貴会の質問項目の③(イ・ロ・ハ)にも具
体的にあげられているように住宅事情をはじ
めとして、産休制度・育児休暇の不十分さ、
また働く母親の実態に合わない保育所の問題
などは深刻です。保育料・教育費なども、年
々高くなるばかりで、子どもを育てるうえで
家庭の経済的負担は多くの家庭にとって切実
な問題です。生活様式は大きく変わりましたが、
長びく不況・高物価・重税のもとで、実
質賃金は目減りし、私たちの生活は以前にも
増して圧迫されているのが現実です。
それに加え、政府は、財界によってすす
められている臨調路線は軍事を優先し、国民

の福祉や教育の切り捨てをねらっており、女
性や家庭の負担をいっそう大きくしようとし
ています。安心して子どもを産み育てられる
社会的条件を整えることこそ先決であるにもか
かわらず、これらをなおざりにしたままに
「経済的理由」による中絶を禁止することに
は絶対反対です。

十代の妊娠中絶の増加も、改悪の理由のひ
とつになつていますが、この問題を解決する
ためには、法律を厳しくして中絶を減らす
というのではなく、教育やモラル・文化の問
題を含めて総合的な対策こそ必要です。
また「経済的理由」の削除により、中絶が
合法的にできなくなれば非合法のヤミ中絶が
増えることは外国の例からも十分予想され、
かえって母体を危険にさらすことになりかね
ません。中絶は女性の立場からも決して望ま
しいものではなく、また中絶をする女性も、
中絶したくするわけではけつしてないでし
ょう。百パーセント安全という避妊の方法が
ない現在、最後のギリギリの選択としての合
法の中絶が残されていることが必要だと考え
ます。本来、子どもを何人産むかとか、いつ
産むかということは国が介入したり、法律で
規制したりすべき問題ではありません。
世界的な流れとしても、人工妊娠中絶に関
しての法的規制というものは緩和される傾向に
あり、国連の人権宣言や国際婦人年世界会議
の世界行動計画でも「個人と夫婦の基本的権
利」であると明確にうたわれています。
いずれにしても大事なことは子どもを安心
して産み育てられるような社会的条件を確立
することが先決であると同時に、生命の誕生

グループ報告

行徳・浦安グループ
あれやこれや



市川市

「行徳・浦安あんふあんで」と名乗って
ると、何だかそれなりの活動をしてきたよう
な錯覚にとらわれてしまいが、まずグルー
プの最初のきっかけは、近くに住む会員をお互
いに探していた私と、現在のスタッフでもあ
るKさんが公園で子供を遊ばせながらおしゃ
べりをしよう、ということが始まった。それ
が二年前の四月頃で、一応週一回屋外の公園
で午前中とお昼のお弁当と一緒に食べるこ
とにした。しかし流れることが多く、しかも二
人ではどちらかの都合でダメになったりとい
った具合で、月に一度か二度もあれば上々だ
った。その後、五月頃に浦安の会員が増えて
三人に。

最初の目的は、親も子もそれぞれ仲間を作
って充実した時間をもちたい、というよう
なことだったと思うが、どうしても親同士のお
しゃべりの方に比重がかかったことと、共同
保育の方向には積極的になれなかったため、
夏頃から今後の試みのひとつとして読書会を
持つことにした。それが定着して、結局、月
一回会員宅をまわりもちで一年ちよつとた
った。読む本は、全く、レポーターの偏見と独
断で決められ、へただし、なるべく値段の安
い新書版を愛用したりするが、当日は午前十
時からお弁当持参で一時過ぎまで。いつの頃

からか当日の会場提供者が、得意料理(?)
までごちそうしてくれる習慣になって、他の
メンバーもそれぞれ前夜の残り物やら、せ
せと作った作品を持ち寄って昼食会をかねる
ようになり、これも楽しみのひとつなのだ。
現在はメンバー七人に、連れてくる子供も
七人だから全員では相当の人数になるのだが、
子供をあきさせない方法として自宅提供をと
った。ところで肝心の本は、詩から教育、公
害、戦争等、幅広くというか脈絡なく進んで
きたが、自分では読まない種類の本を読むと
いう利点があった。最近、メンバー一巡の時
点で方向を変えて、明治の女性史を小説で読
んでみようとしたのだが、何分背景となる歴
史の知識に欠けることがよくわかり、今度は
もろさわようこの「おんなの歴史」の近代か
らを少しづつ読んでみることにした。

活動としては読書会と、月一回ではしゃべ
り足りない分を集まれる人だけでおしゃべり
会もしているが、十月に初めて集会をもった。
といっても当日来たのはメンバーの何人かと
他は二人だけだったが、それでもミニコミ紙
のお知らせを見て来た人が一人でもあったこ
と、公民館で三時間以上の会が子供も一緒に
持てたことは、少しづつ自分の中に蓄積して
いく何か、なのだろう。内容は、今度の優生
保護法「改正」の勉強会だったが、不十分な
ところもあったので、もう一度避妊の勉強会
を開く予定。会にしても、集会にしても、人
数はわずかでしょこしょやっていくこと、や
めないで続けることが最大の、そして唯一の
ポイントだと思ふこの頃です。

図書コーナー

「よあけ」

作画 ユリー・シュルヴィツ
出版 福音館 九百二十円

読んだ後、すごく静かに想めぐ事のできる
絵本で、少ない言葉で、静かに老人と少年の動
きを追うだけで、筋立ての華やかさはないの
ですが、巻末の自然の力(朝日が湖面を照ら
す)の表わし方がとても快い。

種を明かすと唐の詩人柳宗元の「漁翁」と
いう詩が、絵本の下地に有るのだそうです。
東洋の芸術にするとい感覚の持ち主、彼の他
の作品も読んでみたくなるステキな絵本。
新しい年を迎える時、子供と読んでみるの
はどうかしら。
国立市 室田

「元気が出る教育の話」

中公新書
斎藤次郎・森毅著

知らず知らずのうちに子供を「教育や管理
の対象」としてしまい、いかに子供も大人も
のびやかでなくなっているのかを、改めて感
じました。色々な子供がいて当然なのに、そ
れを一直線に並べて、はみ出しを許さない教
育の話。子供に好かれる女の先生が、生徒達
に「明日は私の誕生日なので休みます」と言
って拍手される話。元気に生きながら子供や大
人の話もいっぱい。楽しく生きながら人生じ
ゃない感じがします。不安ばかりが先立って、
ギクシャクしがちな親子関係から脱け出て、
ちよつぱり元気が出てきそうです。
相模原市



あんふぁんて
から
あんふぁんて
へ



ブルー・インバースとかけて

船橋市

久々に、ちょっと良い話をお知らせしましょう。と言っても自衛隊の親衛隊ではありませぬから、よろしく。

うちの次男が十月から通い始めた保育園のことです。お便りメモに年長さん宛の伝達事項がありまして、(当方の子は年少さんだから関係ないのに)ふと眼を留めるもハッと内容ではありませんか?『来る十一月二十五日は習志野へ落下傘部隊の降下訓練を見学に行きますのでお弁当と水筒を持参のこと。尚おやつは園で用意します。』ですって。

日頃ノンポリ、あんふぁんての活動的なスタッフ連の積極的な取り組みを斜めに見すごして来た自分ながら、こればかりは許せないぞ、と勇気をふるい、一筆したためた訳です。全面的に先生の御指導を信頼して子供を託しているのに、この様な時代の背景を承知で白紙状態の子供達をそういう場に連れて行くのでしょいか?幼な心に不意な驚きや憧れを抱かせることはとても将来に対して危険な要素となり得るし、サーカスでも見に行く様な気軽さで園の行事として取り入れることには断乎反対します。色々なお考えの方もい

ることでしょうが、戦争放棄を唱える私達としては、我が子をこの様な場に参加させることは出来ないでしょう……と。

その結果「考え過ぎではないか、参加は強制ではありません」との返事だったのがっかりしたのですが、この一線だけはどうしても譲れない、と反論したところ、急遽中止になったとのこと。「あゝまだ園にも良心があったのか」それとも「他に仲間が居たのかな?」「やっぱり園児減少の折、親に逆らえない」と思っていたことだな」と色々想像しながら、ホッとしたりニヤリとほくそ笑んだり。だって、小さな声でも呼びかけてみるもので、すね、教科書検定問題にしても、浜松の航空ショーにしても、人の心を傷つけたり、事故を起こしてからでないと、はきりとその非を認めない日本政府のやり方に、いつの間にか子供まで巻き込まれてしまうところではないもの。無知なままに若き日の防衛大生との楽しい語りの中から、何か違うな?という疑問・はきり時代を批判出来ない立場の辛さみたいなものを感じ、団体と個とのジレンマに悩みながら、青春の貴重な日々を中途でなげ出して、人生の回り道をしたことに気づく健康な若者達、今回のブルーインバースの事故でも、漠然と空を見上げていた人に、このままではいけない。と身近に政治を考えさせるきっかけにはなったことでしょう。

我関せず、ではなく、一人一人のしっかりした判断力が時代の流れを変えさせ得ると確信した次第。ちょびりオーバーだけど、本当にそう思われませんか?何方か御意見を聞かせ下さい。

あれから二カ月

府中市

心臓手術のため娘が入院したのは九月の後半、まだ暖かい雨が降る頃だった。あれから二カ月。我が家には今、一回り大きくなった娘とちょびりやせた私がいる。

体格が良く元気な我が娘がひょんなことから先天的な心臓病だとわかったのは今年の春。再就職のめどもたない私は、これでまた一年を棒にふるのかとイヤな気持ちになったものだ。おまけに娘は三歳になっても母親べったり。近所の人から「あらまだお母さんから離れられないの」とか「一人っ子だからママが過保護なのよ」とか言われると肩身が狭い。人生は短い。早くなんとかしなければ。

しかし無情にも時は過ぎ、親子三人リョックをしょっての入院となった。(荷物が多い時はリュックが二つ)小児病棟なので仲間は沢山いたし、週三回は先生が来てプレイルームで紙芝居や工作をしてくれるというので、娘は大喜び。しかし、優しい看護婦さんについて行くと「ハイ採血」「ハイ検査」の連続。次に自分の身に何がおこるか分からない不安から、娘はますます母親べったりになっ

てしまった。手術は四時間。経過も良く夜には麻酔からさめ、次の朝集中管理室に面会に行った時には起き上ってミルクを飲んでた。病室に戻ってきたから四日ほどは熱も高く注射や吸引のたびに泣きわめいたので、私は夜も眠れずげっそりしてしまっただが、熱が下がると同時に元気になる、一週間目にはもう椅子からとびおどり遊んでいた。子供って回復しだすと

「あんふぁんてをやめて、その後」

大阪市

私は九月末に退会通知を出しました。それはけっして、あんふぁんて運動から身をひくつもりのものでなく、むしろ発展解消形の退会です。私が入会したのは今から七年前、あんふぁんてができてまもない頃でした。第一子出産の為、故郷に帰る列車の中であんふぁんての新聞記事を見た時の感激はいまだに忘れていません。私は、本当は子供はほしくなかったのです。育児に時間をとられ、自分の時間がなくなってしまうことを恐れていたのです。ですから、実家への旅もなんとなく疎ましいものでした。「子供がいることをプラスの要因として道を探っている女の集団がいる」とことへの驚き、発見。私は目からウロコがとれたような気がしていました。

そして七年、私は大部変わったと思います。女の役割の固定観念にしばられ、不満だけは一人前だったあの頃と比べ、少なくとも今は、女の問題を相対的にとらえることができるようになっていきます。ここ数年は、ある女のグループに属し、様々な運動にかかわり、経済的にも徐々に自立してきています。もちろん、とりまく状況はそれ程変わってはいないし、自分自身、ふがいなく思うこともしばしばですが、少なくとも、あの頃のように「子供などいらぬ」と思うことなど一時もありません。子育ての繁雑さに悲鳴はあげながらも、基本的には前向きでいられると思っています。あの時、「あんふぁんて」に出会わなかったら、もっとずっとまわり道していたでしょう。ですから、とっても感謝しています。

早いですがネ、それから退院まで、娘は私をおいてきばりにしてさっさと誰かの病室へ行き、ちゃっかりお菓子やせしめたりよそのお母さんと遊んだり、思いきり病院生活をエンジョイしたようだ。

今回の入院は娘にとっては勿論、お産の時以外入院経験のなかった私にとっても非常に貴重な体験だった。特によかったのは人間関係。小さい子には付き添いが認められるため、病棟全体で常時二十人近い母親がいたのだが、病気のことで病院のことなど色々な情報を教え合ったり、共同で洗濯や買物をしたり子供を面倒を見合ったり、皆すごくよく協力し合っていたのだ。そして私も、いつしかその中にすっかり解け込んでいた。大部屋で一カ月も二カ月も一緒に過ごすのだから当然なのかもしれないが、人見知りの私が初対面の人たちとこんなに密接な関係を持てたなんて驚異的。そして、今まで基本的に他人を信用せず常に娘を自分の視野の中に入れて育ててきた私自身、娘の狭さを改めて感じた。誰かに助けてもらわねばならない時もある。誰かとひとこと言葉交わすだけでずいぶん楽になることもある。そんなことを感じた入院生活だった。

退院してから一カ月。友だちとの遊びも解禁になり、娘は元気に外を遊び回っている。そして、二カ月間全く動けなかった私は、もうあせらなくなった。回り道でいいからじっくり何かを探そう、もっと毎日を楽しもう。人生は長いんだ……



就学時健診 あっちから こっちから



品川区

小学校の就学健診の通知が来てドキリとしています。昨年から会報で「行った。行かない。行かないで欲しい。」など読み、受ける前までは私も行かないと確信があったけれど、いざ自分の子供のハガキを受取り行かなくても平気でいられるかしら?と思いません。どうも文章で通知が来るのかもわからなかった私です。過ぎてしまえばなんでもないこともかもしれないけど未経験者には勇気がいらすね。私みたいに受取るまでは「行かない」つもりでいる人達へ受取って動揺するかもしれない人達へ通知の内容のコピーを送りたいと思います。が、忙しくてコピー取りに行けません。こんなに脅迫めいた文章だとは思わなかったのです。この内容を読み、健診の当日学校に行かずに近所を歩けるかしら?学校との対応は?なぜ私は行かないのかその理由をどんな人にも話せるようにももっと詳しく勉強しなければならぬのです(あんなふんてで反対だからではダメでしょう?)皆さんはどうだったでしょうか。

品川区

十月二十四日、就学健診のハガキが配達された。今まで何も取り組めずにまだ見ぬ学校とやりあうのがこわいことも含め、理念として「どの子も地域で生きていく」ことは私の運動になるのだろうか。他人のために動いていくウツは耐えがたいし、が障害児を他人であると感じる自分こそ、障害者から隔てさせられている体制にばかりきっている証しだ。こういう時こそ友人の助けを借りねば……とTEL。独身で十年來障害者の施設で働きつづけ、その間障害者と共に住んだりもしたF。年子の子持ちで共同保育所をつくって、(つぶれた)去年毛利子来氏を呼び就健拒否の集会を仲間と持ったM。大田のあんなふんてで今年当日に拒否のビラまきをするとはりきっているI。婦民の読書会で知り合い、生協で活動している今年就健のF。Fから紹介され、毎年目黒で就健にとりくみ「教育を考える会」をもっているN。実姉でキー屋をしながら学童保育にとりくんでいる横浜のY。Yからの紹介で同じ保育園の父母で品川で障害児学級を長年担当しているW。だんだん地域が近づいてきて少しづつ孤立感が薄まった。あんなふんてのKからきた就健に長年とりくんでいる「が」この会。ここで紹介された、知恵遅れの人たちと地域で生きていく活動を中心に、就健拒否のビラまきを品川、大田中心にしている「なまずの会」。四才の障害児(昨年ようやく保育園に一才児クラスから入って、今四才児クラスにいる)がいて親たちの会も中心になってつくっているM。ほんとうにいろいろな人に会ったり、TEL

したりジタバタして、私はなんと臆病なのか。でもみえもしない「みんな」にまどわされ、つぶされていくより、具体的にひとりひとりを知っていく。そして自分が変わった。話の中から……。品川で毎年三〇名くらい普通学級にいかない子がいる。親がどうしても普通といえ、教育委員会はOKを出すのが現場の受け入れ体制がひどく悪い。去年は五名くらい様々な方法で拒否した親がいる。みんなすんなり一月半ばには入学通知がきた。みな健常児だ。がもし健常児にはすんなり通知して、線上にひっかかった子に「ご相談」が強制されれば問題になるし、システムとして完成させることに手をかさない方がよい。振りわけの結果される教育の質。その質を要請している社会で生き難くなっている私たち。有能な主婦が夫や子どもをダメにし、動きづけることすら、逆に人の足をひっぱることにつながったり、こう生きれば!といった見本なんかない。だったら、自分の生き方を支えてくれる友人や情報をもって、叩かれても泣き寝入りしたくない。

十一月九日、就健日。ちょうど休みだったのでハガキ一枚で拒否の通知をして遊びにいった。昔はハガキ一枚で徴兵にいったのだ。そんな悲憤感に満ちている私を見て連れ合いが言った「どうせやるなら、冗談ばかりくらくらくやればいいのに。」からやかにやれる人は素敵だけど、みっともなくてもやらないよりずーっといい。ただ孤立無援の思いからはオサラバしたい。

△続△ 全P研 シンポジウムから

足立区

二日目の分科会には「地域における教育運動」をテーマに千葉県の学習会グループのレポートを聞いた。このグループは会員二十名前後。月一回の会合で発足以来三年半経過。学習会という形を一応とってはいるものの活動報告をきく限りではまさに「教育運動実践グループ」といった印象だ。以下その活動の一部を紹介。

○給食センターの実態調査。自校方式給食へのとりくみ。学力テスト廃止運動。市立高校設置運動。健康問題とPTA。家庭教育学級の運営。「太陽の子」はだしのゲン。「人間をかえせ」等の上映会。岩崎ひろ「平和カレンダー」教科書は危ないの販売etc。実に多種多岐にわたる活動、その行動力には恐れ入るばかり。これらの活動のすすめ方がまたユニークだ。一つには会員が各PTAで積極的に役員となる。時にはケンカ腰で役員の奪い合いになるという。活動の場はPTAに限らず、既成の婦人会、青少年相談員あるいは社会教育の場と様々だ。しかも一般的に保守色濃厚と思われる婦人連合会の幹部(?)になり、行政への積極的な関わりを運動の手段とする。時に一人で十数種の役職につく人もいるという。リポーターの言葉をかりるなら、まさに「超人的」だ。リポーターを聞き終わってみるとなぜかグループ自身の主張がぬけおちてしまったという印

象。実践報告に終始して、方法論だけが誇張された形になってしまったためかもしれない。ところで今、足立区では学童保育の保護者負担費の値上げ問題がおきている。学童保育室では毎日おやつが用意される。毎月保護者が払う千円はこれとおやつ代にあてられる。しかし値上げの内容はおやつ代相当分の解釈ではなく人件費や施設管理費なども含むものだ。現実には児童一人当たりかかっている二万三千円を保護者がどこまで負担するかで区は検討をすすめている。

子どもが通う学童で父母会の会長をしているので必然的にこの問題に関わることになった。値上げは切実な問題であることは勿論、学童保育室の在り方をも問うことになるだろう。学童保育連絡協議会が各父母会を集約する形で進んでいる。それは具体的には陳情書の署名集めに始まるのだが、なぜか個々の父母の声が聞こえてこない。もっとも切実味をおびてこない。学童保育室の増設の音が上がる一方で塾通いなどの理由で退室者が増加しているのも事実だ。値上げ阻止の運動を展開するより学童保育をやめた方が早いという状況もおこりかねない。

かたや運動を目的としてグループがおこり、かたや運動の必要を目のあたりにしながらなかなか展開していかないこのギャップは一体何だろうか。地域性という便利な言葉に問題をおきかえたくない。千葉のグループの場合でも会員の各PTAでの運動の展開はかなりのむずかしさを伴っている。自分達の問題として、押しつけではない運動の必要を今感じ

情報コーナー

★お祭やろうよノワイ・ワイ・ワイ!!

クリスマス、忘年会、新年会、PTAのお楽しみ会etc。本当に楽しい催しである?自分達で作らあげる、そんな人と出会う喜び。春三月にむけて、そんなプランを練ってます。何しろ仕事用事の多い身だけど、幼い子供を持つ女達、お互いをぶつける場も欲しいという事で、まずは場所さがし。祭好きを探します。安月給にめげず、子育てに疲れないで、夫婦げんかもいい加減にしてさ、寒空にチェ、出し合って、パーティーといこやんかノ連絡先。

★丸木美術館増築募金に御協力下さい。

丸木美術館増築で「原爆の図」全十五部陳列という体制が整うこととなります。人類の未来を救い出すための投資として、募金に御協力下さい。(財)原爆の図 丸木美術館郵便振替口座

★パンフ「間に間に」

アイダを生きたる、アイダの言葉「間に間に」というパンフが編集される予定です。これは在外外国人指紋押捺を、拒否してゆく運動をしている女達の会が発行します。そのための資金カンパ・一口千円です。郵便振替口座 「間に間に」誌編集委員会

★発行「女性学年報三号」

「女性学年報」三号が、日本女性学研究会より発行されました。新しい学問分野を開拓する研究誌として、高い評価を得ています。連絡先

★あふんてスキーツアー

一月三・四・五日、北志賀高原「ロッジ新」(会員の竹田さんがやっているところ)です。ヨロシクノ宿泊。もちろん、子連れ可。定員ワクあり、詳しくは古知まで。

★無農薬野菜レストラン「でめてる」

国分寺北口駅より、子連れで五分強。野菜の味を考えて作っているそうです。定食五百八十円より、珈琲三百円。量も満腹できるし、食器の趣味がいい。ベンチがあるから赤ちゃんも平気。トイレにナプキンがあつて店の人に話すと使えるんだって。「かぼちゃの親子煮」がおいしかった。(室田)

スケジュールメモ

12月20日(月) 1月15日(土) 事務局冬休み
(但し、電話のみ・郵送は可)
1月16日(日) 2月号編集会議
1月23日(日) 2月号編集作業会議
2月6日(日) 3月号企画会議
2月20日(日) 3月号編集会議
2月27日(日) 3月号編集作業会議

スタッフから

●「働き時」というのがあるのかもしれないと最近新しい職に就いてから思うのだけれど、実際に子供が女の働き方というのがとってもむづかしいのだ。力を充分出しきりたいと思えば一日中仕事の事で頭がいっぱい、自然就業時間も長くなってくる。イヤでやっているわけではないので、本人としては苦痛どころか張り切っているのだけれど、その分子供にシワ寄せがいくのはわかりきっているから、子供の状態と仕事を始終はかりにかけての追いまくられる日々。でも子供が居るからこそ、そうやってブレイキをきかせながら走っているのだと思う。もし独り身だったらワワークと突走って知らない間に男社会のシステムに巻き込まれてたなんて事になりかねないのだ。男と肩を並べて頑張らなければならぬ時もそりゃあるだろうけれど、それをいつも認めていたんでは世の中変わらない、と思うけどどうかしら？ (牧田)

●集会も三多摩全城から人が集まって、まずは成功。これからは市議会に請願・陳情を各市で、との事で、国立でウロウロ。疲れてます。でもやるしかないか。(室田)
●下の子供が来年の春で三才。えっちらおっちら事務局まで来るのも、気のせいかなあと思います。あつという間にもう十二月、来年はもつというんな事が出来るかな。(井上)
●五年生にもなると「リンチ」なる言葉も現実にとびかたりしてハラハラの毎日よ(古知)

事務局までの地図

★入会申し込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載。

★参加費は一ヶ月四百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に。特に未納の方は至急払い込みを、休会、退会も必ず連絡を。

★事務局の電話受付は原則として月々金曜の二〜四時です。御協力を。